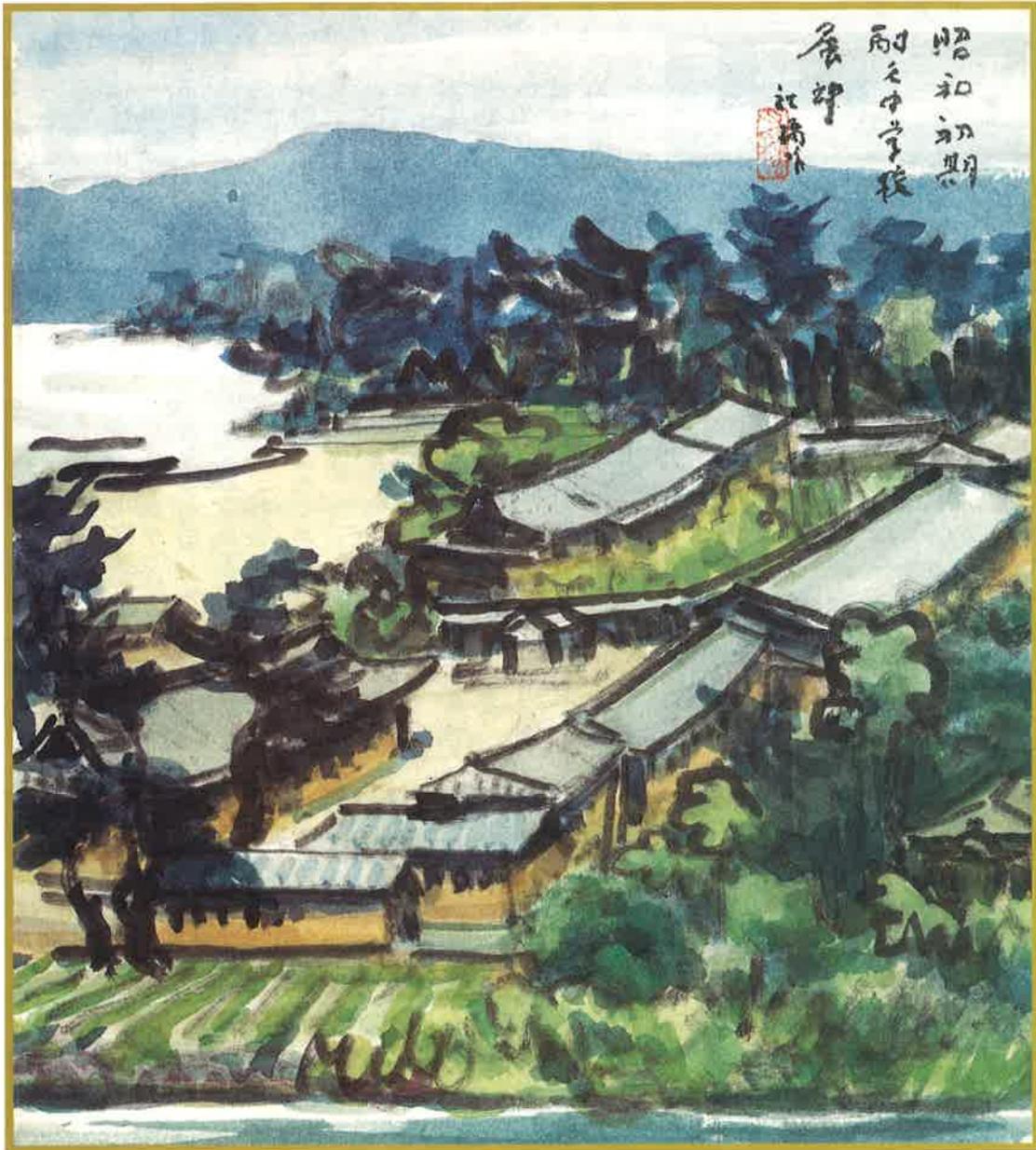
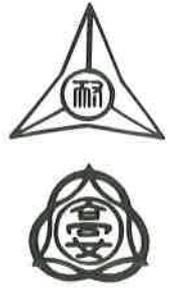




耐久高等学校同窓会報

耐久



NO. 6

旧制県立耐久中学校 展望

故斉藤勇吉教諭(祐橋)画

天州ヶ浜を擁し、緑の中に点在する学舎の数々は、それぞれの思いを彷彿させてくれるに十分な昭和初期の風景である。

平成十一年度卒業式

去る三月一日(水) 第五二回全日制(三二五名)及び第四四回定時制(八名)の卒業式が昼夜にわたり執り行われました。

福田行宏校長は、菓立っていく卒業生に対し、「謙虚に生きながらも、一隅を照らす存在であって欲しい。また、生涯にわたって『常に学ぶ心』を持ち続けて欲しい。』という饒の言葉を贈られました。

橋本佳巳同窓会長は、前日に、新しく本会の正会員となる卒業生の幹事・評議員との懇談会を持ち、同窓会の意義や役割、活動状況について説明し、また、卒業式では、「いつ、どこで、だれとだれがどんなめぐり逢いをするか、それが大事なんだ」という相田みつをの言葉を引用し、饒の言葉として、「三つの心」即ち「学ぶ心」「感動する心」「燃える心」を提示され、また、今までに発行した同窓会報の「特集」五編のコピーを全卒業生に贈りました。

式後、生徒会からの贈る言葉が書かれた垂れ幕の下を退場していく卒業生の中

平成十二年度入学式

には、目に涙を浮かべる者、見送る恩師と握手を交わす者もいて、厳粛な中にも感動的な卒業式となりました。

去る四月十一日(火) 平成十二年度の入学式が敷添泰弘新校長を迎えて挙行され、新入生三二〇名(男子一五二名・女子一六八名)が入学を許可されました。その結果、全校生徒は四月十一日現在九五六名(男子四七六名、女子四八〇名)となりました。

敷添校長は式辞の中で、新入生に対して「高等学校へは何と言っても勉強するために来ているのだということをも今一度自分自身に言

い聞かせて欲しい」「学校は誰にとっても安心のできる楽しい場所であってほしい」と話されました。また、音楽家グスタフ・マーラーの言葉「伝統とは過去の火を崇拜することではなく、常に火を燃やし続けることである」を引用しながら、「まもなく創立百五十周年を迎えようとする本校の伝統の上に胡座をかくのではなく、生徒一人一人が自分自身を光り輝かせて、『耐久』という伝統の火を一層輝かしく灯し続けて欲しい」と熱く語り、「ともに楽しい学園を創っていきましょう」と述べられました。

また、引用された音楽家の言葉は新入生だけではなく、本校の教職員・在校生、また同窓会員の一人一人が肝に銘じるべきことであると思われまます。

平成十二年度

PTA新役員紹介

会長	三角 治
副会長	佐原 洋一
会 員	中 博美
会 員	野 崎 忠美
会 員	古 川 友子
会 員	坂 野 清
会 員	畑 安博

※会長三角氏は本校25回卒業、現在、吉備町役場勤務。

同窓会活動報告

- (1999)
- 7. 16 同窓会報No.4発行
- 8. 31 150周年について合同会議 (学校・PTA・同窓会)
- 9. 13 第3回役員会議
- 9. 23 同窓会総会 (於 耐久高、会議室)
- (2000)
- 2. 17 小関県教育長と懇談 (県庁)
(伏木PTA会長・蔵野湯浅町教育長・同窓会長・辻岡)
- 2. 29 同窓会報No.5発行
- 2. 29 新評議員・幹事(卒業生)との懇談(会長・事務局)
- 3. 1 全日制52回卒業式
定時制44回卒業式 (夜)] 会長
- 3. 6 第4回役員会議
- 4. 6 教職員送別会 (於 横楠) 会長
- 4. 25 同窓会名簿完成・発送 (出版社・KK廣濟堂)
- 5. 22 新旧校長歡送迎会—同窓会主催— (於 美屋井)
- 6. 8 150周年準備合同会議 (学校・PTA・同窓会)
- 6. 30 第1回150周年準備委員会
- 7. 8 県同窓会総会 (於 アバローム紀の国) <5名出席>
- 7. 12 第2回150周年準備委員会
- 7. 21 学士院賞受賞の千川純一氏祝賀訪問(校長・会長・事務局長)
- ※同窓会名簿作成関連で数回の打合せ会
- ※会報委員会 毎号数回の編集・校正会議

◆創立150周年記念事業の一つとして発刊した同窓会「会員名簿」(出版社、KK廣濟堂)も多くのの方々のご協力を得て、この4月末に完成し、約2,500冊を販売することが出来ました。名簿作成が某出版社の「同窓会名簿総監」と競合し、会員の皆様方を混乱させ、大変ご迷惑をお掛けしたと存じます。ここにあらためてお詫び申し上げます。

新名簿は5,000円でB5版、650余頁、見易く、引き易く、担任記載、クラブ記載等と随所に工夫と改善を凝らしたものとなり、今までと装いを異にしており、編集委員一同創立150周年記念に相応しいものになったと自負しております。なお名簿に関するお問い合わせは事務局まで!

事務局 Tel 0737-62-4148

Fax 0737-62-2251



(入学式)

千川純一博士、谷口維紹博士 学士院賞授賞

平成十二年度学士院賞授与式が六月十二日、天皇皇后両陛下ご臨席の下、東京上野の日本学士院で挙行されました。

受賞者十名（一名は学士院エンジンバラ公賞受賞者）のうち二名は耐久卒業生で、一人は現在・兵庫県立先端技術支援センター所長でX線結晶学の権威でもある千川純一博士で授賞事項は「シリコン結晶の成長と完全性」、また一人は東京大学医学部教授で分子免疫学の権威者谷口維紹博士で授賞事項は「インターフェロンを中心としたサイトカインの研究」であります。

全国で九人のうち二人も同一校の出身ということは非常に稀なことであり耐久高校の誇りでもあります。耐久の長い歴史と伝統にまたひとつ大きな灯が点りました。いまミレニアムの年に両博士は偉大な成果を上げてきたるべき二十一世紀にむけて後輩や同窓に大きな夢と希望と誇りを与えてくれたような気がします。

ここに両博士の業績を讃え敬意と祝賀の意を表し、これからの益々のご活躍を期待したいと思います。

日本学士院賞

学術上特にすぐれた論文・著書その他研究業績を顕彰。この授賞制度は明治43年（1910年）に授賞規則が定められ、明治44年より毎年挙行されている。毎年9件以内を対象に、賞状・賞牌・賞金が授与され、平成12年度は第90回授賞式となる。なお、昭和24年以降の授賞式には天皇陛下の行幸を、平成2年からは天皇皇后両陛下の行幸啓を仰いでいる。

両博士のプロフィール

千川 純一



1930年 和歌山県湯浅町に生まれる。
1948年 旧耐久中学校（現耐久高校）卒業（旧中学42期）
1953年 京都大学理学部物理学科卒業
1960年 京都大学大学院物理学専攻（旧制）修了
1960年 NHK技術研究所研究員

1961年 京都大学理学博士
1982年 NHK放送科学基礎研究所次長
1984年 筑波学園都市文部省高エネルギー物理学研究所教授
1985年 筑波文部省高エネルギー物理学研究所放射光実験施設長
1991年 姫路工業大学理学部物質科学科教授
1996年 播磨科学公園都市兵庫県立先端科学技術支援センター所長

大河内記念技術賞、紫綬褒章受章、2000年学士院賞。文部省高エネルギー物理学研究所名誉教授。

SPring-8の高速電子ビームから出る放射光を利用した産・学・官の研究を支援・推進している。

谷口 維紹



1948年 和歌山県清水町に生まれる。
1966年 耐久高等学校卒業（高校18期）
1971年 東京教育大学卒業、
1972年 ナポリ大学研究員
1978年 チューリッヒ大学大学院卒業
1978年 チューリッヒ大学にてPh.D.取得（遺伝子工学博士）

1978年 癌研究所研究員（ハーバード大学、ニューヨーク大学に留学）
1983年 癌研究所生化学部部長
1984年 大阪大学細胞工学センター教授
1995年 東京大学医学部教授

野口英世記念医学賞、ハマー賞（米国）、国際インターフェロン学会ミルスタイン賞、朝日賞、ロベルト・コッホ賞（独国）、藤原賞、和歌山県文化賞、慶応医学賞、2000年学士院賞。

東大大学院医学系研究科免疫学講座を担当し、若手の育成と免疫学の研究に励んでいる。

新しい世紀を迎え、皆様の益々の御健勝を御祈り致します

坂井漁網株式会社
坂井マリン株式会社

代表取締役会長 坂井敏雄

〒642-0001 和歌山県海南市船尾263
TEL 073-482-7477(代)

栗原整形外科
リハビリテーションセンター

有田市初島里1702
TEL 0737-82-5645

栗原良次・栗原益男



熱帯魚&器具

中紀ペット

西 邑 孝 (高4期)

御坊市本町(千寿堂・2F) TEL(0738)24-0133

— 有田の地酒 —

くまのみち醸造元

高垣酒造場

高垣淳一 (高35期)

金屋町小川 TEL.0737-34-2109(代)

戸上会計事務所

税理士 **戸上栄吉**
(旧中40回卒)

事務所 和歌山市小人町11番地
TEL.073-432-1001(代)
FAX.073-432-1003
自宅 有田郡湯浅町港区2849
TEL.0737-63-3070(代)
FAX.0737-63-3071

「真・健・美」

具体的な実践を求めて……



学校長 藪 添 泰 弘

同窓会の皆様、平素は本校教育の充実と発展のために、一方ならぬご支援、ご協力をいただき本当に有難うございます。

本年は、ミレニアムを迎え、様々なものが、命あらたに生まれ変わろうとしております。しかしながら、そのような中にあっても、間もなく創立一五〇周年を迎えようとしている本校の輝かしい歴史と伝統は、ますますの重みをもって感じられる今日でございます。

私はこの度、十二年ぶりに再びお世話になることになりました。どうかよろしくお願い申し上げます。

現在の高校生は、今まさに始まろうとしている二十一世紀に活躍する人達であります。これからはコンピュータ等の発達により、高度情報化が更に進むであり

ましようし、また国際化が一層進展し、世界はますますボーダーレスとなっていくことが予測されます。

高校生達がこうした変化の激しい時代をたくましく生き抜いていく為の基礎的な力を高校三ヶ年の間に十分身に付けておくことが何よりも大切であると思います。

私はかねがね教育とは、子ども達に夢や希望を持たせること、そしてそれらを育てることであると考えております。

本校への着任に際し、「真健美」の校訓を今一度想起するとともに、それぞれを具体的に実践していくことが、私に課せられた責務であると自覚しております。どうか今後ともよろしくお願い申し上げます。

◎校舎改修工事始まる

耐震性構造建築への改修と美装工事が向う三ヶ年計画で着工。工事中の不便さはあるものの、見違える校舎群が今から楽しみである。

(1) 進路状況 (平成12年3月卒業生)

	4年制大学								就 職				その他	合計	
	4年制大学				短期大学				専修 各種	公務員	企業	家業			合計
	国立	公立	私立	合計	国立	公立	私立	合計							
男	15	1	65	81	0	0	2	2	22	1	4	3	8	15	128
女	9	9	49	67	1	7	54	62	37	3	7	0	10	11	187
合計	24	10	114	148	1	7	56	64	59	4	11	3	18	26	315

(2) 合格状況 (平成12年3月卒業生と過年度生)

	4年制大学							短期大学						合計	
	国立大		公立大		私立大		合計	国立大		公立大		私立大			合計
	現	過	現	過	現	過		現	過	現	過	現	過		
男	16	5	2	2	125	42	192	0	0	0	0	2	0	2	194
女	11	3	9	0	93	9	125	1	0	9	0	71	0	81	206
合計	27	8	11	2	218	51	317	1	0	9	0	73	0	83	400

進路概況について

18歳人口がやや減少しているとはいえ、まだ進学・就職等の厳しい状況の中で、今春の卒業生315名はよく健闘しました。合格者総数は、昨年より増加し、難関校の合格者も増えました。日々の努力がこのような結果に結びついたものと考えられます。

主な合格先(延べ数)

- 国立大学
 - 和歌山大(16)、和歌山県立医大、大阪大(2)、大阪市立大(3)、大阪府立大(2)、大阪女子大、神戸商科大、姫路工業大、金沢大、愛知教育大、三重大、岡山大、香川大(2)、etc.
- 私立大学
 - 日本大(3)、南山大、京都外大(3)、京都産業大(22)、同志社大、立命館大、熊谷大(4)、大阪工大(7)、近畿大(24)、関西大(7)、関西外大(5)、桃山学院大(4)、関西学院大(3)、甲南大、etc.
- 国立短大
 - 和歌山県立医大看護短(8)、京都大医療技術短、東京都立短
- 私立短大
 - 明治短大(2)、京都女子短(2)、京都医療技術短、大阪女学院短(2)、関西外短(7)、四天王寺国際仏教短(3)、平安女学院短、武庫川女子短(2)、甲南女子短、和歌山信愛女子短(9)、etc.
- 専門学校
 - 和歌山赤十字看護(7)、和歌山県立高等看護(3)、和歌山労災看護、和歌山看護(4)、水産大学校、etc.
- 就職
 - 公務員、JR西日本、和歌山近鉄百貨店、ホシデン(2)、etc.

塗装のことなら 中内 塗装 中内 祐也 (高45期) 湯浅町山田10-13 TEL63-3769	各種肥料— 籠谷 興業 (株) 籠谷 伸一郎 (高17期) 広川町名島55-5 TEL.0737-62-2108	花のことなら おまかせ下さい。 おし花教室もやってみよう。 エアメール 垣内 湯浅町859(道町立石角) TEL.0737-62-2509/FAX.63-4345	荒磯の美味 活魚の 魚 恒 前田 道治 (高7期) 湯浅町南かじや町 TEL.0737-63-3371 FAX.0737-63-3373
--	--	--	---

特集 友情・感謝・健康に乾杯!

阪神タイガース「虎風荘」寮長 梅本正之



へ進学。迷わず野球部に入部。そこで、今もなお人生の友として深い交流を続けているチームメイトとの出会いがあり、野球漬けの青春が始まりました。

先輩達(その中に兄もいた)が果たした県大会ベストフォー進出の戦績を目標に、練習に明け暮れました。

稲刈りが終わった山田で、足元を気にしながら、早逝した兄と陽の暮れるまで続けたキャッチボール。それが私の野球との出会いです。中学・高校で活躍する兄は私の憧れの的でした。

昭和二十四年春、津木中学校入学。運動場は小学校と共用、猫の額程狭く、三遊間を抜かれればボールは広川の溪谷へ、補欠選手は捕虫網を持って川べりで待機という始末。

野球指導は初めてという部長先生が、私達と一緒に汗を流し、私の荒れ球を黙々と受けてくれました。その先生の球も又ノーコンだったことが懐かしく思い出されます。終戦間もない頃で、グローブは粗末な布製、ボールも貴重品でした。

幸い、一年生からレギュラーとして好きな野球に没頭することが出来、本当に楽しい三年間でした。

昭和二十七年、耐久高校

は終わり、進路選択の時期を迎えました。

かつて兄が学び、先輩が在学している「関西大学」への進学か、一方、プロ野球への夢も捨てがたく、揺れ動く毎日でした。

そんな時、偶然耐久出身の田坂さんが勤務されていた。加えて私が憧れて止まなかった藤村富美男選手が在籍していたタイガースからの接触があり、私の心は大きく傾いたのです。

まさか現実になり、昭和三十年大きな希望を持つてプロの世界に飛び込んだのです。目の前に憧れの選手達が練習をしており、親しく声をかけてくれました。

昭和三十二年、幸い一軍で登板の機会を与えられ、巨人戦二勝を含む四つの勝星を挙げることができました。その後、酷使が祟り肩を痛め、外野を務めたり、代打で出場したりの現役生活を経て二十七才を迎えたシーズンオフに藤本定義監督からコーチとして後輩の指導をしてくれないかとの言葉があり、迷いはありましたがチームのためにと引き受けました。

若手の指導のはずが、先輩にあたる吉田義男・三宅秀史選手、又同僚の選手達にノックの雨を降らす羽目になりました。多少の違和感はありましたが、割り切

って頑張りました。その間、三十七年・三十九年・六十年の三回、それぞれ選手として、コーチとして、教育係として優勝の美酒を味わうことができました。前置きが長くなりましたが、昭和五十九年、第一線を退き、若手選手の宿舎でもあり、教育の場でもある「虎風荘」の寮長に就任しました。

大観衆の見つめる中でのプレーを夢見て、高額の契約金を手に入団してきた選手達が、持てる力を十分に発揮出来るように、そして野球選手としてだけでなく、立派な社会人としても心身に健全な人間になるように、責任を持ってお預かりするのが寮長の役目と自覚し、選手達に接してきました。

現在「虎風荘」には二十五名の若手を中心とした選手が在寮しています。試合先からその時々々の成績による喜怒哀楽を引っ提げて帰ってきます。

ある時は喜びを共にし、時には励まし、又個人的な悩みや相談事にも耳を傾けます。そんな日々の中で、選手達が機会を与えられ活躍するのを見聞きする時、寮長冥利を感じるのでした。

皆さんには想像出来ないと思いますが、最近の選手達は案外少食・偏食の傾向があるのです。寮の栄養士さんと共に、選手達の健康

管理に腐心するのも寮長の大きな仕事です。

練習方法が私達が経験したスパルタ的な長時間にわたる練習からアメリカナイズされた合理的なトレーニングに変化していることも一因かもしれません。格好よさを求める風潮も考えられます。

この傾向は最近の若人一般にも言えることのように思われます。

しっかり食べ、しっかり体を鍛えて頑張つてほしいものです。

先年定年により、一時傍系のゴルフ場の支配人を務めました。二年前に再度寮長にという球団からの要請があり、現在に至っています。

短かったけれど最愛の兄との充実した触合い、中学時代のチームメイトとの団欒、高校時代共に練習に打ち込んだ仲間達、そして四十六年間にわたるタイガースという組織の中で出会った人々や出来事から学んだのは、「常に相手に対する感謝の気持ちを忘れないこと」「それぞれの世界のプロであると同時に、立派な社会人として通用出来る人であれ。」ということでした。私もこの教訓を自分のこととして、今後も精進したいと思う昨今です。

母校の繁栄と野球部の健康を祈ります。(高七回生)

連載

(一) 稲むらの火

垣内 貞

美智子皇后が、昨秋記者
団と一年を振り返っての懇
談の中で、天災人災による
悲しい出来事があったこと
を述べられたあと。

「子供のころ教科書に確
か『稲むらの火』と題し、
津波の際の避難の様子を描
いた物語があり、その後、
長く記憶に残ったこと
でしたが、津波であれ
洪水であれ、平常の状
態が崩れた時の自然の
恐ろしさや、対応の可
能性が学校教育の中で、
具体的に教えられた一
つの例として思い出さ
れます」と語られ、そ
れが産経新聞に掲載さ
れた。

皇后が長く記憶に残った
という『稲むらの火』は、
旧耐久中十八期生の故中井
常蔵氏の文章である。

このことについて、生前
中井氏は「昭和九年、文部
省が全国小学校教員を対象
に新しい国語と修身の教材
を公募すると発表した。文
部省が民間から国定教材を
採用するという事は海に

浜口梧陵

未曾有の英断であり、この
画期的な試みは教育に情熱
を傾ける私達教師の心を強
くゆすぶり、かねてから子
供に愛され親しまれる教科
書をと念願していた私は、
その渴望の一つを自分の手
でと考えて応募したのが、
この一篇でありました。

原文は多年日本に滞在、
大学などで教鞭を執ら
れながら「ニッポン」
のよさと美しさを多彩
に筆に托し、親日文豪
として知られたラフガ
ディオ・ハーン(小泉八
雲)が「A Living God」と
して世界に紹介された
物語です。

主人公の五兵衛は、私の
母校いまの耐久高校の前身、
耐久舎を同志と共に創立し
た浜口梧陵その人で、近代
日本の先覚者として政治・
教育・経済のあらゆる面から、
私の最も敬慕する偉大な魂
のひとつであっただけに、文
学に素養の薄い私ながら一
気にこの一文を綴りあげた
のでした」と語っている。

「これは、ただ事でない。」
とつぶやきながら、五兵衛
は家から出て来た。で始ま
るこの文章の大意は、

不気味な地震で外に出た
五兵衛は、海の波が沖へ沖
へと動き海底が現れる
のを目の当りにして、
とっさに津波の来襲を
予感する。

しかし、村では豊年
を祝う祭の支度で、先
程の地震には一向気付
いていない。

このままでは四百の
命が、村もろ共ひとの
みにされる。

五兵衛はいきなり収
穫したばかりの自分の
稲むらにつきつぎ火を
放つ。

暮なずむ中、稲むら
は天を焦がした。村人
は五兵衛の家が火事だ
と、急いで山手へ駆け
出した。高台から見下
ろしている五兵衛の目

には、それが蟻の歩みのよ
うに、もどかしく思われた。
やっと若者が駆け上って
きて、すぐ火を消そうとした。

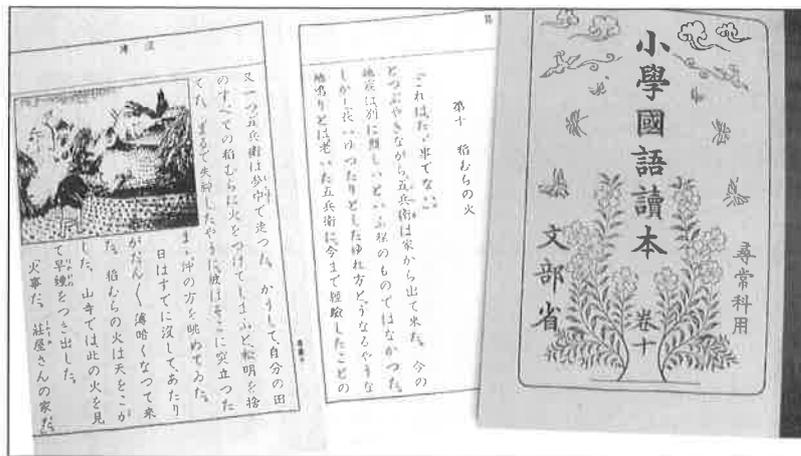
これを強く制止した五兵衛は、
後から上ってくる老若男女
一人一人を救えた。

村人は燃える稲むらと五

兵衛の顔を、代る代る見く
らべた。

「見ろ、やってきたぞ」。
彼の指さす方を一同は見た。
「津波だ」。

海水が絶壁のように目の



村を、一同はただ呆然と見
下した。

稲むらの火は風にあふられ、
あたりを明るくした。

始めて我に返った村人は、
この火によって救われたの
だと気付くと、無言のまま
五兵衛の前にひざまずいて
しまった。

いつ読んでも、その文章
は一言半句の緩みもない、
緊迫感と臨場感にあふれた
名作である。

私も『稲むらの火』を習
った一人であるが、郷土に
このような立派な人物がお
られたのかと、子供心に誇
に思うとともに、いつまで
も忘れられない、深い感動
に浸ったのであった。

筆者プロフィール

垣内 貞 (旧耐久中39回生)
昭和3年12月生れ

昭和63年湯浅小学校校長を
最後に教職歴四十有余年。
特に熊野古道関連を中心と
した著書が多い。

(現在、湯浅町別所に在住)
・ 有山地方文化財保護審議委員
・ 連絡協議会会長
・ 湯浅町文化財保護審議会
委員長



高女26期生 古稀の旅

毎年一回の同窓会旅行を楽しんでいた有田高女二十六期生は、今年は古稀の祝いとして、東京在住の方々、又、地元金屋町の方々のご尽力により、二泊三日の北海道道東の旅を実現して下さり、参加させていただいた。五月九日は、天気快晴、東京組は羽田より、大阪、和歌山組は関空より、それぞれ出発、総勢三十八名は、帯広空港にて合流、皆の顔は、生き生きと輝き、まるで、修学旅行の少女のように、久し振りの再会を喜びあう。若くてハンサムなバスの運転手さん、アッハッハッと哄笑する愉快な中年のガイドさんの案内で、阿寒湖へ、気温は十一度、道の両側には根雪が残り、雪化粧の雄阿寒、雌阿寒岳の雄姿を車窓より眺める。トド松、カラ松は、未だ芽吹かず、白樺も寒そうに立ち並ぶ。ところどころに、青い麦が十糎ほどに伸び、水芭蕉、露の薨が雪を割って咲いているのが可憐だった。遊覧船に乗って阿寒湖一周、マリモの展示館を見学した後、阿寒湖エメラルドホテルへ、早速、温泉で暖まりほっと一息、夕食時は、女将の挨拶や舞で歓迎して下さり、後はいつもの如く、ご馳走に舌

鼓を打ちながら、役員さん方の趣向を凝らして下さった余興に笑いこぼすので、楽しい一夜でした。

翌十日、八時出発、曇り空で寒い。横綱大鵬関の記念館、銅像を左に見て、弟子屈通過、這うようにバスに迫っていた霧は、摩周湖に着けば完全に霧の中、紺碧の湖に浮かぶ綺麗な緑の鳥を想像する。残念！バスはJR釧網線に平行して北上、屈斜路湖を見る。硫黄山にて下車、赤や黄のアイヌ服を羽織って記念撮影をする。バスの行く手に藻琴駅が見える。ここは四十余年前高倉健主演の「網走番外地」の撮影に使われたまま保存している由、「すずらん」「鉄道員」の駅舎を見るようだった。バスの中は和気あいあい、なつかしい戦時下の歌の合唱となる。「花も蕾の若桜五尺の命ひっさげて」「月月火水木金金」等々、食糧も衣類も何も無かった私達だが、皆たくましく育った。

ていて、内部を詳しく見学させていただいた。北海道の立派な道路は、囚人達の苛酷な労働によつて造られたとか、如何なる罪を犯して、この最果ての獄舎

知床プリンスホテルへ、役員さん方のお骨折でゲームや抽籤会、無有り歌有り、楽しく遊ばせて頂く。三日目は、もう帰途へ、知床峠への道は、雪崩の危険で、時間制限があり行けず、



に縛られ、罪を償ったのである。うか。海鮮市場で昼食、買物後、原生花園へ、ハマナスも咲かず、後、オシンコシンの滝へ。岩肌を斜めに豪快に落ちるすばらしい滝の下で記念撮影、二泊目は

での送迎や、種々の連絡をして下さった、金屋町の役員様方に深く感謝申し上げます。
あ、の丘がピンク一色に染まれば、さぞきれいだらう。広大な釧路湿原は、縹渺と風が吹き渡る。釧路で昼食、買物、最後までシヨッピングは旺盛だ。空港で東京組と、別れを惜しんで、関西組は一足早く出発、全員無事元気で帰着した。年初めより計画して下さって、旅行社との交渉や手配等して下さった東京の役員様、又関空まで

杉原富士子記

◆ご贈答には鶴屋の銘菓を◆

御菓子司



鶴屋徳満

本店 奈良市下御門町 TEL.0742 (23) 2454
FAX.0742 (23) 2455
支店・三条店・直売店・奈良そごう店・洋菓子部
高橋富子(旧姓:児島)高女4期生

お上り同級会顛末記

37期生 中 孝一

今年には西暦二千年に当たる年なので、その記念も加味して、五月十日〜十二日の三日間、南関東での同級会を挙行了しました。

第一日午後三時、熱海後楽園ホテル集合。六時より宴会開始。

開会前のロビーでは「おうおう、お前か」「久しぶりようきたな!!」とか、声を掛け合い、手を握り合う姿が見られ、やはり同級会ならではの光景が繰りひろげられました。

卒業後五十六年、齢七十路も半ばともなれば、お互



中37期生 熱海後楽園ホテル 2000.5.10

いに掛け合う「変わりないか? 元氣か?」という言葉が実感として身にしみえます。

身体状況や家庭事情により、最終参加者は十六名になりましたが、参加者それぞれが参加できた幸いを噛みしめたことでしょう。

懇親の場では、不参加のクラスメイトの消息や恩師の思い出、在校当時の学校生活等、話は尽きず、談笑は夜更まで及びました。

同級の山田雅胤氏の労作在校五年間の年譜は大変ありがたく、古きを温ねて新らしきを知る好企画として大変ありがたいことでした。

翌日は貸切りバスで「西湘バイパスを経て鎌倉観光昼食後「東京アクアライン」へ「うみほたる」PAにて休憩。近代技術に目を見張り木更津・館山経由、今日の宿泊地幕張のホテル「マンハッタン」到着。

いよいよ今回の最後の日程の東京巡り。今話題の「お台場」・「両国江戸博物館」の偉容と内容の豊富さに驚くおなじみの浅草寺を散策・参詣。昼食後予定していた皇居内見学は折からの雨のため中止。バスの窓からの都内巡りに変更。若き日の

修学旅行の雰囲気を味わう。雨の晴れ間に靖国神社に参詣を果たし、午後三時東京駅着。

数々の思い出を胸に解散。和歌山からの参加者は「ひかり」に乘車、帰郷の途についた。

来年は二十一世紀の初頭を迎えるに当たって「白浜で一泊の同窓会を開催できるように努力しよう!!」と決めて散会した次第でした。

懐旧と明日への希望にあふれた三日間でした。

=地区別学友会について=

明治四十年 日高学友会の誕生を機に、有田郡内、主として通学生の多い湯浅町に「那耆浴風会」、広に「尚志会」金屋に「生石会」有田市に「長峰会?」など設立され、在校生が中心となり卒業生も加わり、出身小学校に集まりお互いの交流を図ったり、鎮守の清掃などもしたものである。右以外の地区については、会の名が不明なので、ご存じの方はご一報願いたい。

生石会開く

35期生 高垣源徳



金屋町・孝寿司 2000.6.10

旧耐久中学時代の出身地区別学友会組織の「生石会」も、結成以来八年を迎えました。(会長 岩本廣二氏)

二年毎に行う懇親会を、去る六月十日(ミレニアム時の記念日)の意義ある日に「孝寿司」を会場に開きました。

同級会より面白いと言いつながら、校歌・応援歌・三一会歌を歌って、思い出を語り合い、楽しい一時を過ごしました。

(因みに生石会は現金屋町出身者による組織です)



橘家
Wedding Hall
TACHIBANA
有田市宮原町17
橋爪正文 (高39期)

ご予約は

TEL.0737-88-7005
FAX.0737-88-7775



株式会社 **中井組**
取締役社長 中井長左エ門

本社
和歌山県有田郡湯浅町湯浅2512番地
電話 (0737) 62-4131(代)
FAX (0737) 63-4360

オフィス事務用品は… **KOKUYO**

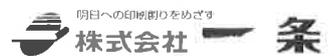
(株)和歌山**ココヨ**

和歌山市井ノ口1104
TEL.073-477-1245 FAX.477-2138

会席・御料理・仕出し



小川正
小川弘芝 (定11期)
TEL.0737-62-3510
有田郡湯浅町なぎ区 FAX.0737-63-3006



和歌山市湊糸屋町2丁目30番地
(市民会館前)

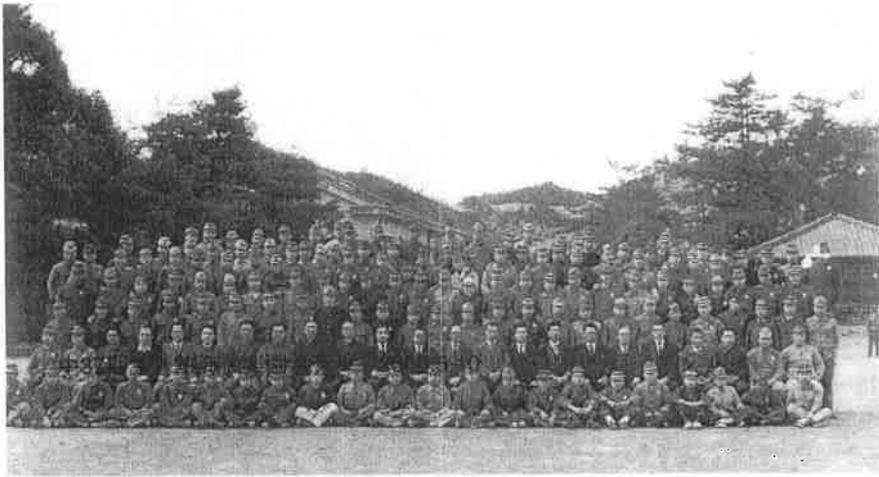
TEL 073-423-6950
FAX 073-423-6955



旧制第40・41期 同窓会開催!

梅雨の晴れ間広がった七月二日、旧制耐久中学校第四十・四十一期の同級会が、湯浅町内の「横楠」さんで開催された。

玄関前に立てられた歓迎の看板に書かれた「旧制」の文字に、足を止めて見入る人も見かけられた。



読者の皆さんも、二期にわたる学年が同一会場で同時に行なわれることに疑問を持たれる方も多いと思う。私達の数奇な学校生活は昭和十六年に遡る。

国威発揚の一環として、小学校が「国民学校」と改称され、その第一回生として少国民教育を受けたのである。

その年、十二月八日には大東亜戦争が勃発。

緒戦の勝利に酔った昭和十七年、入学したばかりの私達を迎えたのは耐久中学創立九十周年式典だった。

三日間、式典・スポーツ大会・各種展示会と盛大な日程だった記憶がある。

戦争の推移は中学生にも暗い影を落とすはじめた。

山林作業・草刈り作業・勤労奉仕に駆り出され、ともすれば授業も十分に行われなくなつた。

おかげで、私の英語は未だに「イットイズ ア ペン」の域を出ない有様で

ある。

戦況ますます利あらず、三年生になったばかりの私達にも学徒動員の波が打ち寄せてきた。

三組がローテーションで由良町にあった陸軍航空燃料廠のガソリンタンクの隠蔽作業に従事。四年生に進級した昭和二十年四月からは、家を離れて御坊にあった航空機の部品工場へ。

いよいよ授業は全面カット。空襲・機銃掃射の下で過ごした恐怖の四カ月。そして敗戦。

八月十五日。率直に言つて「今晚から逃げなくていい。明い電飾の下で過ごせる。」

という喜びで一杯であった。動員から帰った学校は、軍国教育から一転して、進むべき方向を模索する混乱に巻き込まれてしまった。

教科書の黒塗り・鉄砲の焼却、中でも悲しかったのは九十周年記念に購入した二機のグライダーがあつと言う間に人々の面前で灰燼に帰ってしまった姿だった。

最後まで最上級生になれなかった三十九期生のみなさんに次いで、私達は四年生で卒業してもよし、希望者は五年生に進級という措



中40・41期生 割烹横楠 2000.7.2

置がとられたのであった。

前者が四十期生、後者が四十一期生というわけ。

四十一期生には南海大地震による津波の来襲という災難が待っていたのである。

かくして、波乱に満ち満ちた学生時代を共有した同級生が集まったのである。

五十年振りに初めて出席した友もいて、大きく引き伸ばした卒業写真を中心に懐旧の語らひはいつまでも続いていた。

齊藤 記

夢は甲子園!

球想会 (高4期)
五百崎 博己
上野山 和夫
川口 昌彦
中邑 信五
橋本 佳巳

同窓の皆様の御健勝を祈ります。

清水康夫 (中42期・高1期)

カラープリント・APS・スピード仕上
各種記念写真・出張撮影



湯浅町湯浅1852(ユピア1F)
TEL(FAX) 63-2170

アルミサッシ・ガラス
(有)北又建硝
北又 努

湯浅町青木252
TEL.0737-63-4582 FAX.63-6031

・新鮮な魚・貝類に恵まれたお宿
・各種会合・同窓会に最適!

シーサイド 松宮

松宮 功 (高11期)

湯浅町湯浅3200(南浜埋立地)
TEL.0737-62-2670
FAX.0737-64-1601



高3期

長くて短い楽しい同窓会

第三期同窓会は久々に母校当地、湯浅町なぎ区「シーサイド松宮」にて、桜咲き乱れる四月九日の日曜日に開かれた。

恩師広井先生をお迎えし、男子二十四名女子三十二名が出席、正午、まず潮風に吹かれながら記念撮影をすませ、二階の大広間で尾崎君の司会で開会。広井先生から英国滞在時に感じた向こうの人たちの他人への思いやりのはなしなど交えご挨拶をいただいた後、一番遠方から参加した辻本君の乾杯の音頭で宴会に移った。

今回は久しぶりに出席した会員がかなり多かったこともあり、お互いの話題が尽きず、また、先生を囲んでの思い出話にも華が咲き時間のたつのを忘れていた。そのうち、宴会開始前に撮った記念写真が出来てきて皆に配布されるといふ手順の良さで、うろ覚えになっていた名前と顔の再確認に大いに役立った。



高校3期生 シーサイド松宮 2000.4.9

いつまでも名残が尽きなかったが、四時前、来年は卒業後五十周年になるので来年の同窓会も母校の所在地で開いてほしいという大方の要望で、今回に引き続き湯浅で開催することと決まり、最後に物故者二十七名の冥福を祈り黙祷を捧げた後、再会を約して散会した。湯浅地区在住の幹事の皆さんには、再度お骨折りをいただくこととなった。

なお、有志三十余名は駅前の「あま美」で引き続き二次会に入り、矢櫃さんの「旅まくら」を皮切りにカラオケや懇談に興じ、広井先生のおはこ「津軽海峡冬景色」と「悲しい酒」も聞かせて

高5期

第5期卒業(昭28)同窓会

いただき、最後は平井君と「別れのルンバ」を皆で歌って十八時十五分名残を惜しみ

二〇〇〇年四月十六・十七日

於 京都・清水

桜花爛漫と咲き乱れる京都にて盛大かつ充実した同窓会を行いました。卒業後四十五年ですが、関東・岐阜・京都・大阪・兵庫・湯浅・由良・和歌山市内から男子二十二名、女子二十五名が集い賑やかに楽しい二日間でした。やっぱり女子の方が強いかも？

宿も五条坂の「きよみづ」桜の名所でもあり、好天気にも恵まれ素晴らしい思い出を作れたと思います。宴会も十八時から二十二時迄閉宴を言われる迄飲んで話して盛り上がり、時間を忘れて過ごしました。

二〇〇二年の耐久学舎開校一五〇周年の記念に母校の地、湯浅で同窓会を開催することを確認し、今後ともお互い全員元気に楽しく人を愛し社会につくして、家庭円満に生き抜いて行く

つつ解散した。長くて短い、楽しい同窓会だった。市間敏太郎

うと誓い合って、東に西にと袂を分かちました。

最後に耐久高等学校の発展向上と校長はじめ諸先生及び各先輩、後輩の皆様の御健康と御多幸をお祈り申し上げまして、報告の結びと致します。

幹事代表



高校5期生 於(京都)きよみづ 2000.4.16・17

<p>井屋美割 湯浅町2922 TEL.63-3640</p> <p>宮井料理店 仕出し 湯浅町753 TEL.62-2207</p> <p>宮井慶三(高7期)</p>	<p>中善商店 湯浅町TEL.六二二五二</p> <p>中善隆</p>	<p>各種写真撮影カメラフィルム フジカラープリント ハイスピード仕上</p> <p>湯浅大富通り TEL.七〇七六二五五〇〇 小泉博(高26期)</p> <p>小泉写真店</p>	<p>吉備インターゴルフセンター TEL.52-5678(代) 吉備町土生409</p> <p>ヒロオ薬局 平尾泰宏(高17期) 有田郡金屋町金屋722-1 TEL.0737-32-2215 FAX.32-4553</p>	<p>www.kobatasangyo.co.jp</p> <p>小畑英三 tel:073-423-4148 ei-kobata@kobatasangyo.co.jp</p> <p>高18期のメーリングリストを開設しました 同期の皆さんのメールをお待ちしています アドレス: taikyuu18@b9.easymail.com</p>
--	--	---	---	--

高7期 百花為誰開

若葉日増しにまさる五月二十四日、高第七期生有志四十名はジャパンフロラ二〇〇〇に参加致しました。メインゲートに並んだのは午前十時過ぎ、午後三時迄の自由行動が与えられ三五五会場見物となり手荷物になる昼食のお弁当は早く済ませ、人の流れに添って回る事にしました。

今、ガーデニングがブームですが、花は見飽きる事なく楽しませてくれ、心の拠所となりました。

名札の付いていない花の名前がなかなか思い出せず、健忘症がひどくなったと感じながらも「花よりもきれいに撮ってネ」との厚かましいスマイルに「ハイそれなりに」とシャッターを切ってくれる。

還暦を過ぎた今も尚乙女心は消えず、和気藹々の楽しい時が過ぎました。

歩道に僅かな距離でしたが、暑さを凌ぐ為の心配りのカンレーシヤが掛けられていて、ホット一息つける安らぎの場もあり、大体一回りする事が出来ました。

花博は暑い暑いと聞いていましたが、この日は海からの清風が快よく迎えてくれました。又ウィークデーだったのでスムーズに入館出来た事も大変有難く思いました。

一番印象に残った所は百段苑でした。黄色、白色の可憐な花は金、銀を鏤ばめたかの様に咲き、安全を確認する様な段の造り、又神秘的な水の流れは二十一世紀を物語っている様でした。



高7期生 於(兵庫) ジャパンフロラ2000 2000.5.24.

今、私達は二十一世紀を目前にして大きな変化の真

高10期 還暦の集い

世紀末(二十世紀)に私達同窓生は人生の節目である還暦を迎えました。過去の歴史から世紀末は暗い出来ごとばかりですが一同に会し氣勢をあげそれぞれの時を刻んだ顔と顔が語らうとき、男も女も懐かしい若者の顔に変身していました。

限られた時間尽きぬことのない対話と会話、とりとめのない喜怒哀楽の産物にみんなが酔い痴れました。誰言うともなく私達は還暦(0才)なんだからこれから勝負、自分自身の人生を燃えつくそうじゃないか。次回も顔を見せようと誓い合いい三三五五別れました。最後に幽明界を異にし

つただ中にありますが、この花博が大成功に終り世紀末の不安を取り除くと共に新世紀を皆んなが安心して迎えられ大きく立ち上る事を祈りながら神戸に向う車の中の人となりました。



2000年4月23日(日) 11:30~ 〈有田市・星尾 鮎茶屋〉

た同窓生に、心からのご冥福をお祈り申し上げます。
K・A 記

夕食はオリエンタルホテルを目前にしてのモザイク店で焼肉に舌つづみを打ち、旅の疲れを癒し全員無事帰途に就く事が出来、本当に楽しい一日でした。

森田みどり

会報編集委員会

- | | |
|-----------------|------------|
| (委員長) 清水康夫(高1) | 伏木富紀子(高22) |
| 斉藤春太郎(中40) | 中内京子(高15) |
| 橋本佳己(高4) | 和泉千恵子(高20) |
| 法眼貞子(高19) | 白井敏之(高34) |
| (事務局) 辻岡俊明(高18) | |
| (現教諭) 川口裕幸(高36) | |

会則追加(付則)

本校に在籍し、途中で転校された方の中で本会に入会を希望される方達を歓迎いたします。お友達の情報を事務局迄一報下さい。

今回より創立記念連載として垣内 貞氏に「稲むらの火」を執筆していただくことになりました。創始者梧陵(五兵衛)の側面を知る一助にもなると思います。乞うご期待!

◇ 新版 会員名簿ご利用の方は事務局迄お申込下さい。(¥5,000+送料)

絆 合唱部の巻

部活OB・OGたちの

響け！歌声



py Day」などを歌わせていただきました。）

その中でも、一番の大きなイベントは三月に行っている「合唱コンサート」です。

準備の段階から、当日の運営に至るまでほとんどが生徒たちによって進められます。以前は、きびドームをお借りしてましたが、昨年度は湯浅町多目的ホールで行いました。コンサートでは「まず、自分たちが楽しもう！」を合い言葉に、一曲ごとに心を込めて歌っていきます。そして会場の方々と一緒に歌う「ふるさと」がホールいっぱいにはびきわたり、至福のひとときを過ごすことができました。

合唱する喜び・魅力はそのハーモニーの美しさを体験できることにあります。

ここ二、三年、合唱部は入部者が増え、レパートリーも古典的なものからポップスまで何にでも挑戦して、いこうと大変意欲的で、日々真剣に練習に励んでいます。

新入生歓迎公演、校内文化祭、県下高校総合文化祭などの他、近年地域の小学校、中学校から出演依頼を受け、発表の機会が多くなってきました。（最近では七月十五日に耐久中学校のアクト・タイムに招かれて「この星に生まれて」、Oh Happy

Day」などを歌わせていただきました。）

「楽しかったです。」「来年もきつと来させてもらいます。」などと声をかけて下さり、多くの人々の支えと励ましによってコンサートを無事終えることが出来たのです。

いつのときも、応援してくれている方々や先輩達への感謝の気持ちを忘れずにみんなで協力して、がんばっていこうと話合っています。 顧問・大浦きぬ代



同窓 俳壇

陸誌同人 岡崎宙夏
(高7 岡崎多加之)

・連翹に 触れてもふれぬ 他人の歌部
・たてまへも 本音もおぼろ 月夜かな

高橋富子 (高女4期)

・袴つけ 学びし乙女の 日は遠し

・名簿見て 母校なつかし 老を楽しむ

中内京子 (高15期)

同窓 歌壇

・愚痴ひとつ言わず家業を継ぎし子の
かけるサンダー音のさしみて
・競り合いのボール奪いてシユートする
子に神技の宿る瞬間

Echo!

・すばらしい先輩達の記事に感動の連続です。
・表紙を額に入れて楽しんでます。
・こんな自分でも耐久OBと言わせてもらっていいのでしょうか……。
・創立一五〇周年事業の日は決まったのでしょうか。当日同期会を母校の地でと考えていますので早く知りたい。

毎号多くの期待と励ましの数々を頂き、編集委員一同元気づけられます。

ご支援の皆様へ感謝

今回も各期の同窓会時の残余金や、ご芳志の数々を頂戴いたしました。ご期待に添うべく頑張ります。有難うございました。

旧中40・41同期同窓会様

高女15期同窓会様

高女18期 (金森喜久子様)

高女22期ときじく会様

高女24期 (匿名)

高女25期同窓会様

高1回生 (匿名・女子)

高3回同期会様

高4回同期会様

高5回同期会様

高10回同期会様

『編集後記』

会報作成と同時進行で取り組んでいた同窓会名簿も二〇〇〇年四月末に完成し、五月の連休明けの頃には注文頂いていた会員の皆様方の手元へお届けすることが出来て「ホッ」とする間もなく、訂正と異動情報に追われ、会報第六号の発行が遅れてしまいました。ただ同窓会名簿発行時に会報購読案内(六頁十号分として千円)を同封したところ一〇〇名以上の方々より励ましの手紙とともに、「活動費の足しにして！」と浄財をいただきました。「会報」を心待ちしてくれている会員の皆様方のためにも、編集部員一同これからも頑張っていきたいと思っております。

そして今回も、多忙な中、執筆・投稿そして取材に協力していただいた方々、またこの厳しい不況下で賛助広告を快く引き受けていただいた方々に心より感謝申し上げます。

